

ライフスタイルプロジェクト研究資料 第3号

農業者意識の国際比較調査

ー日本・韓国・イギリスー

平成17年6月

農林水産政策研究所

は じ め に

農林水産政策研究所では、プロジェクト研究「農村経済活性化のための地域資源の活用に関する総合研究」(平成11～14年度)に引き続き、「ライフスタイルの変化に対応した農山漁村地域の再生方策に関する研究」(平成15～17年度)を実施している。本資料は、これらのプロジェクト研究をつなぐために、後者の通称「ライフスタイル・プロジェクト」の研究資料としてまとめたものである。

「ライフスタイル・プロジェクト」では、農村の再生や活性化につながる諸活動を調査分析するために多方面の領域で研究を実施している。その出発点には、農村におけるライフスタイルや社会の中で農業の位置づけが大きく変わりつつある現在、そもそも農村に住む人々は一体どのような考え方を有しているのかという基本的な疑問があった。つまり、いかなる考え方を基準にして、農村の課題あるいは現代社会の課題を考えればよいのかという問題意識である。ただし、このような問いは、あまりにも拡散した議論となる恐れがあるため、研究課題とはなりにくい。そこで、本プロジェクト研究を進めるうえでの予備的考察として、諸外国との比較調査によって我が国の農業者意識の特徴を明らかにすることを試みた。

先進諸国では、所得補償や環境問題などをめぐって農業や農政が大きく変わりつつあるが、一方では農村的価値の見直しの機運も明確に現れている。別の見方をすれば、WTOに象徴されるグローバリゼーションの波のもと、工業化を旨とした産業社会の展開を受けて先進諸国の農業は共通の課題を抱えているともいえる。そして、各国の農政は共通の場で語られる機会も多くなった。

ところが、各国の農政や農政改革の方向の違いは論じられても、農政が一方で依拠する「農業者の考え方」について各国を比較して論ずることは決して多くはなかった。ここに、諸外国との比較調査によって農業者意識を探る意義がある。今回我々が試みた共通のフォーマットによる国際的アンケート調査の結果が先進諸国の農業や農村、そして農政の今後の方向を考える際に参考になれば幸いである。

なお、本報告書のとりまとめは、当所の合田素行(評価・食料政策部環境評価研究室長)が担当した。この場を借りて、調査に御協力いただいた方々に厚く感謝申し上げる次第である。

平成17年6月
農林水産政策研究所

農業者意識の国際比較調査

—日本・韓国・イギリス—

目 次

	ページ
1. 本調査の目的	1
2. 調査の内容と方法	2
(1) 調査対象国	2
(2) 調査内容	2
(3) 調査の方法	3
3. 調査結果	4
(1) 調査対象者の属性	4
(2) 農業観	6
(3) 環境観	9
(4) 生活観	10
(5) 都市と農村との関係に対する考え方	12
(6) 農政に対する考え方	14
4. まとめ	16
附録：集計表	19
アンケート調査票	25
日本語版	27
英語版	30

1. 本調査の目的

平成 15 年度から開始された「ライフスタイルの変化に対応した農山漁村地域の再生方策に関する研究」（平成 15 ～ 17 年度）では、第 1 課題として「農山漁村地域における多様なライフスタイルの形成と地域再生のための条件整備方策の解明」、第 2 課題として「農山漁村地域再生のための多様なライフスタイルの形成条件の国際比較研究」を進めている。

後者の第 2 課題では、ドイツやフランス、アメリカを対象に都市から農村への人口移動、農村地域の景観・環境保全活動、新規就農、農村における雇用の創出、ルーラル・ツーリズムといった新しい動きに着目して、その関連施策に資するデータを提供することを目的としている。本調査は、この第 2 課題を念頭に置きつつもプロジェクト全体に対する基礎的資料を提供するために実施した。

本プロジェクトが行われる背景には、日本社会が高度成長期を終えて高度工業化 IT 化への道を辿り始めているなかで、農業の社会的・経済的な位置づけが模索される時代に来たのではないかという問題意識がある。人びとの生活は豊かになり、過食・飽食の時代になりつつあることは、都市住民は言うに及ばず、農村住民も従来のライフスタイルを大きく変えることを意味する。しかしそうであっても、それがどのように変わってきたのかは捉えがたい。そこで、本資料ではライフスタイルの現状を直接農業者に尋ねることによって、その内実に接近することを目的とした。

先進諸国の農政は現在大きな曲がり角にある。社会全体が工業化を急いでいた時に生まれた農政は、工業化の進展に並走する農業保護という性格を有する。しかし、現在では財政的制約や保護基準といった基礎的条件が変化し、環境問題や農村地域の諸問題への対処が必要となっている。さらに、工業化社会が要求する貿易の自由化という強力な制約条件も付加される。これらの点が農政改革を不可避なものとしてさせているのである。

そうした事情から、ここ 20 年あるいはそれ以上の期間に渡って先進諸国には農政の転換が求められてきた。そこでは農業保護政策の目的の明確性、政策手法の透明性が国内的にも国際的にも示される必要がある。価格支持から直接支払いへというのが今後の農政の方向であり、我が国では農政改革の一環として初めて多面的機能維持を掲げた直接支払制度が平成 12 年度より実施されている。

このように先進諸国の農政では直接支払いや環境への配慮という志向が共通したものとなっているが、当然ながら各国の事情によって差異も生じるであろう。広い意味で農村に由来する様々な価値——自然の重要性や生態系の維持、食品の安全性、生活スタイルとしての農村への志向——を評価しようという動きが共通してみられるなかで、そこに置かれている農業者の意識はいかなるものか。ここに、本資料で農業者意識の比較調査を行う理由を求めることができる。

農政の変化の行方は定かではない。しかしその帰趨は、それらの政策手段がどのように人々に受け入れられるかにかかっている。政策の実効性は、経済上の得失だけでなく、人

々の社会的な意識にもある程度は依存する。もちろん、補助が全体としては削減する方向にある場合、財政・経済的な事情が政策変化を受け入れる最も大きな要因とはなるのは言うまでもない。しかしながら、その場合であっても人々の社会的な意識の重要性は失われないだろう。またそれは、政策の対象たる農業者だけではなく、財政負担を伴うという意味で都市住民の合意も農業者以上に必要とするが、まずは農業・農村を基底的に担う農業者の意識を明らかにしなければならない。これが本調査の事由である。

2. 調査の内容と方法

(1) 調査対象国

比較地域として、日本以外では韓国とイギリスを選択した。韓国を取り上げた理由は東アジアの地理的・農業的条件、農業経営の規模など、我が国と共通部分を抱えているからである。欧米から1か国を選択することとなったが、予算制約や英語圏、さらに調査協力体制の条件からイギリスを選択している。

(2) 調査内容

本調査では、今後の農業政策の検討の際に参考とすべき人々の社会的な意識を比較するために以下に掲げる項目から探る。なお、調査対象は農家である。

①農業観

一般的な農業観の他、今後の経営についての意向、規模拡大の方向性、多様な経営の発展の可能性等を設問。

②環境観

農業と環境の関わりは、今後農政における主要論点の一つとなることから、一般的な意識と農業との関わりを設問。

③生活観

農村の日常生活、社会生活における男女の役割分担、家庭生活に対する考え方を設問。

④農政観

農政が直接支払いや環境への比重の高まりといったこれまでになかった方向性を持つようになっているが、これらは日韓英においてある程度共通してみられる。こうした変化に対する農業者の意識を設問。

⑤都市との比較

今後の農業・農村政策は、都市との関係をこれまで以上に考慮することになるという想定から、都市との格差意識、交流に対する意識を設問。

(3) 調査の方法

問題の焦点を絞るために、我が国では直接支払制度の実施が開始された中山間地域をとりあげる。鳥取県岩美町・智頭町、秋田県阿仁町・藤里町から各1集落を選び、留置記入式と面接式との併用による調査を実施した。鳥取調査は広島国際学院大学の池本良教氏とその学生、秋田調査は秋田大学の松岡昌則氏（現・北海道大学）とその学生のご協力をいただいた。調査期間は平成14年10～12月である。

韓国においては、農業経済研究所(KREI)の協力を仰ぎ、全国の農家からのサンプリングを行った。調査期間は平成14年1月である。

イギリスにおいては、EUの共通農業政策で言う条件不利地域の中から対象農家を選んだが、大部分が酪農家という結果となった。調査は株式会社プロマージャパンに依頼し、同社に登録されている農家について電話調査を行った。調査期間は平成15年1月から2月であり、回答者の所在地域は以下のとおりである。

地域名	サンプル数
North East, England	31
North West, England	32
Midland & East Coast, England	31
South West, England	32
Wales	125
サンプル数 計	251

また、調査対象者の選定は下記のように行っており、日本、イギリスでは回答者を必ずしも経営主に限定してはいない。

日本 中山間地域に位置する鳥取県智頭町および広島県岩美町でそれぞれ80戸、86戸の農家、秋田県では同じく藤里町および阿仁町でそれぞれ22戸、20戸の農家（計208戸）をランダムに選択してインタビューを行った。

韓国 355通をランダムに全国に配布、回収数は162通、回収率は45.6%である。

イギリス 251人の回答数である。

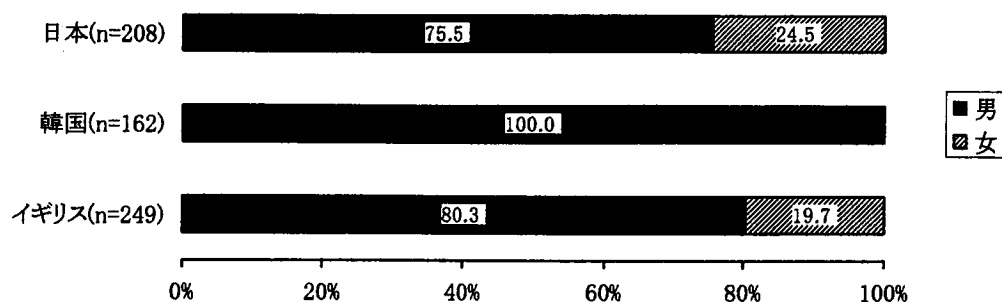
なお、以下で示す集計結果は各設問ごとの有効回答数を母数としている（たとえば、n=240 などと表示）。また、附録として、実数を示した集計表と調査票の日本語版と英語版を末尾に添付しているので参照されたい。

3. 調査結果

(1) 調査対象者の属性

1) 性別

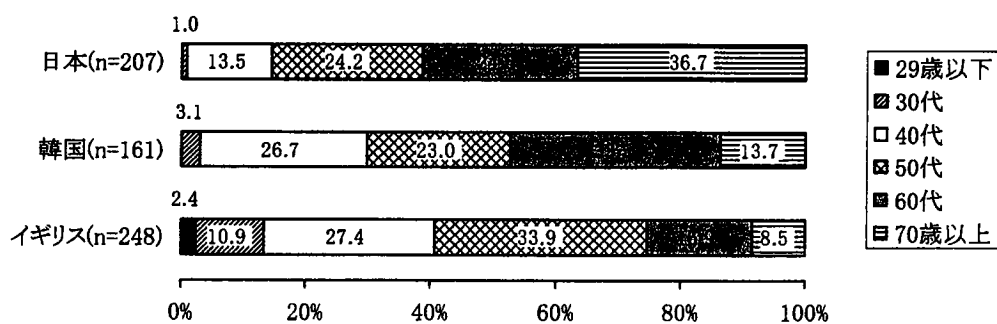
アンケート対象者は、韓国では経営主に限定した影響により、男性のみの回答となった。他の2国では、回答者は訪問や電話をした際に対応した者であるが、8割前後が男性となっている。



第1図 性別

2) 年齢

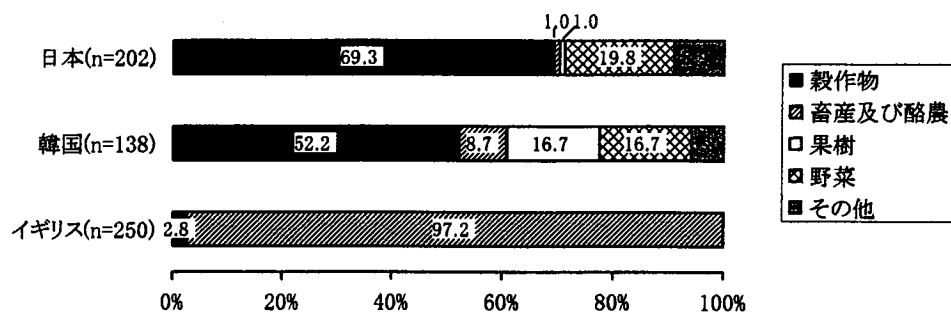
日本の場合高齢者への偏りが顕著である。ただし、農村の高齢化を考慮すると、日本では50代以下が4割程度いることから、世帯主以外の意向もかなり入ったと考えられる。



第2図 年齢

3) 主要作物

日本と韓国は過半が穀作物（その多くは稲作）であるのに対し、イギリスの場合は畜産及び酪農に特化しているという特徴がみられる。



第3図 主要作物

4) 経営耕地面積

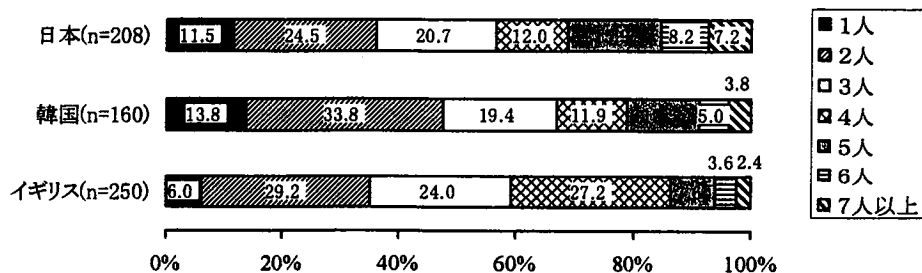
日本の場合 50a 以下が 54.7%、1ha 以下で 84.3%であり、調査対象者が中山間地域に居住していることを反映する。韓国の場合全国値を並べると、やや大規模層に偏っている。イギリスの場合日韓と比較すると、はるかに規模が大きいという特徴がある。

第1表 各国における調査対象者の経営規模

日本			韓国			イギリス	
経営規模	戸数	割合	経営規模	割合	参考(全国)	経営規模	割合
10-49a	115	54.7	1ha未満	21.6	60.7	100ha未満	43.0
50-99a	58	27.6	1-2ha	46.3	23.9	100-200ha	30.9
100-199a	18	8.6	2-3ha	14.2	13.8	200-300ha	11.2
200-299a	4	1.9	3ha以上	17.9		300-400ha	4.0
300a-	6	2.8				400ha以上	10.9
無回答	9	4.3					

5) 世帯員数

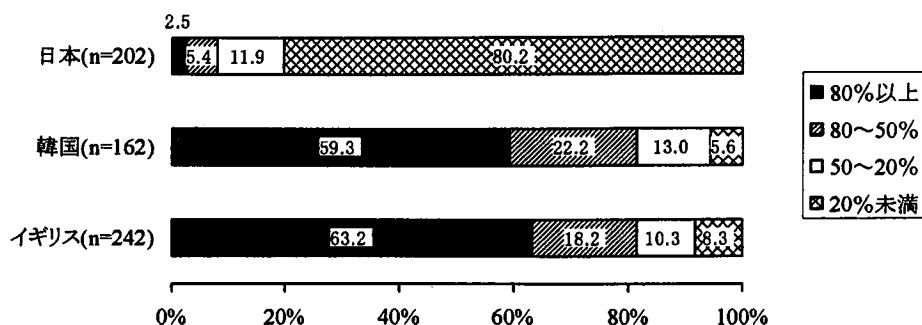
世帯員数規模は、日本と韓国では2人世帯の割合が最も高く、それ以上の世帯規模は徐々に割合が低まる傾向にある。また、両国とも1人世帯の割合が1割を超えているところに特徴がある。他方、イギリスでは2人世帯と4人世帯にピークがある。



第4図 世帯員数

6) 農業所得の割合

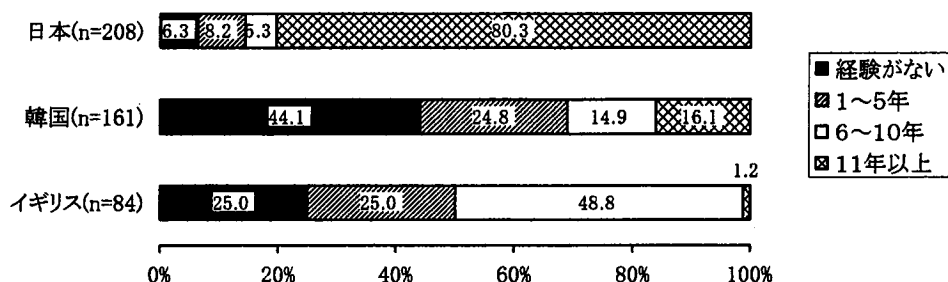
日本では農業所得の割合が 20%未満という者が 8 割に達し、農業への依存度は低い。それに対して韓国、イギリスは農業中心の家計であることがわかる。



第5図 農業所得の割合

7) 農業以外への就業期間

農業以外への就業期間は前掲第 5 図と裏腹の関係にある。日本では兼業農家が多いという実態を反映し、8 割が農業以外への就業期間が 11 年以上となっている。韓国では経験がない者が 4 割に達していることから、兼業機会に恵まれていないことが推測される。



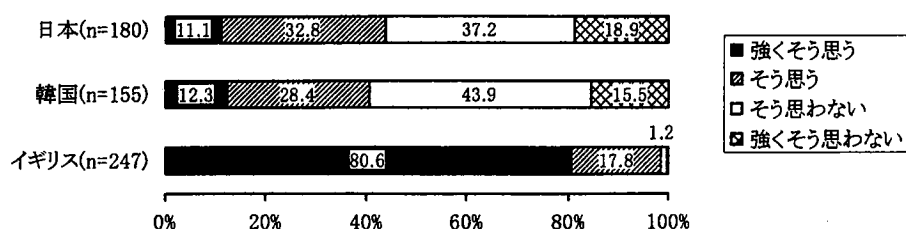
第6図 農業以外の職業の就業期間

(2) 農業観

1) 農業に対する誇り

イギリスの農業者が農業に対して強い誇りを抱いていることがわかる。日本、韓国には目立った違いは少ない。農業に対する誇りはプラスとマイナスの意見がほぼ拮抗している。

<設問: 農業を誇りに思うか>

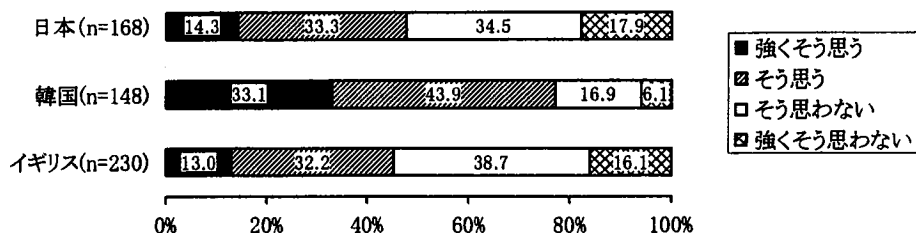


第7図 農業に対する誇り

2) 大規模農業に対する考え方

日本やイギリスと比べて韓国では大規模農業を肯定する考え方が強い。他方、イギリスでは6割近くが大規模農業がよいとは考えていないことは注目される。ただし、回答者の属性でみたようにこれは畜産の場合である。

<設問:大規模農業、低コスト農業が良いと思うか>

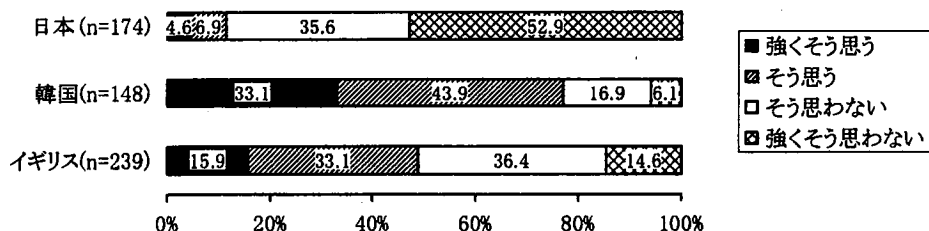


第8図 大規模、低コスト農業に対する考え方

3) 規模拡大の意向

自らの経営を現実に規模拡大したいかどうかは日本が最も消極的で、韓国が積極的、イギリスは意向が分散している。日本場合は積極的な農家が少数にとどまる。

<設問:規模拡大したいと思うか>

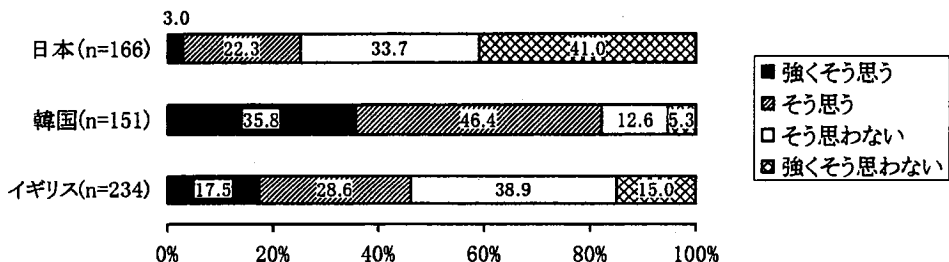


第9図 規模拡大の意向

4) 新しい経営の方向

農産物加工・販売の取り組みについては、各国とも前掲第9図の構成割合に類似しており、日本の消極性と韓国の積極性が対照的である。

<設問:農産物加工・販売を考えているか>

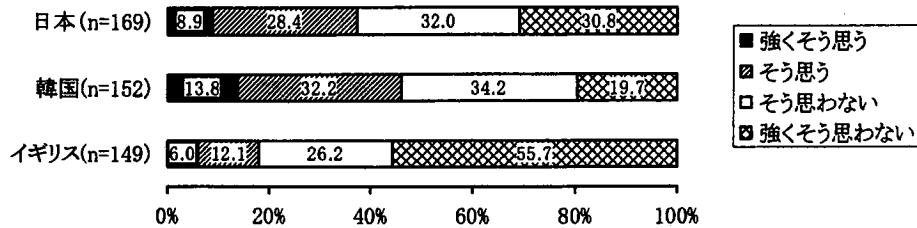


第10図 農産物加工や販売に対する考え方

5) 農業以外の職業への転職可能性

農業から撤退する可能性については、日本、韓国で3～4割がそう思っているのに対し、イギリスでは8割以上が否定的な見解、すなわち農業を続けるという意向を有している。

<設問: 農業とは別の職業を考えているか>

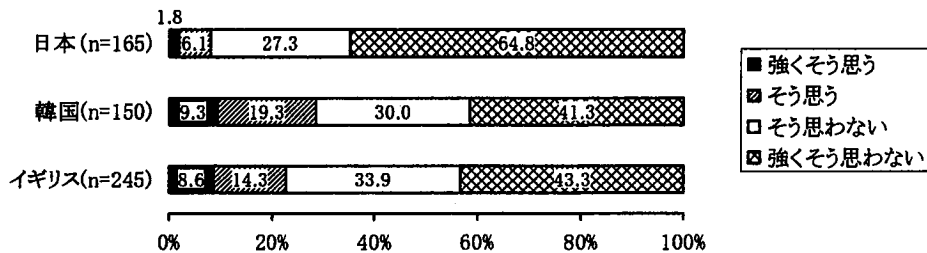


第11図 農業以外の職業への転職意向

6) 農家民宿等の開業に対する意向

農業を生かした農家民宿や B&B 民宿等の開業への意向は、開業資金等の困難もあるせいか、各国とも7～9割は否定的である。特に日本の場合には否定的意向が強い。

<設問: B&Bやレストランなどを始めたいと思っているか>

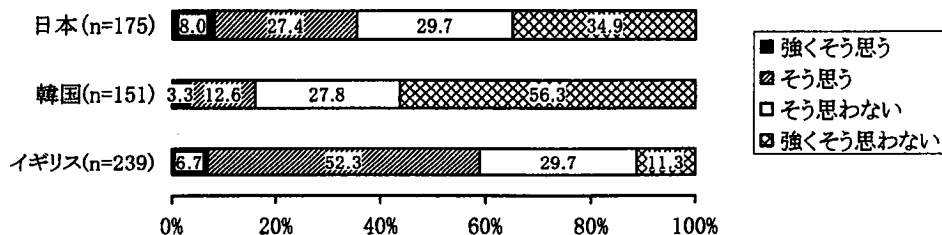


第12図 B&Bやレストランなどの開業意向

7) 子供に後継ぎをさせる意向

自分の子供に後継ぎをさせるかどうかをみると、韓国は著しくその期待が低いのに対し、日本では3割、イギリスでは6割近くが子供への継承を望んでいる。

<設問: 自分の子供に農場の後継ぎをさせたいと思うか>



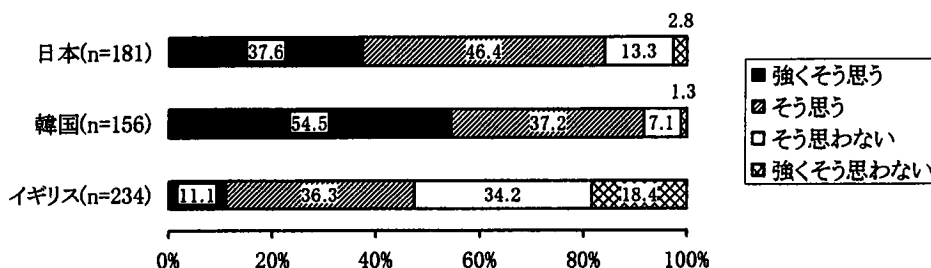
第13図 自分の子供に農場を継承する意向

(3) 環境観

1) 環境悪化の認識

日本、韓国では8割以上の農業者が環境の悪化に対して危機感を有しており、さらに強く認識している者は日本では3割、韓国では5割いる。それに対してイギリスでは危機感を持っている者は5割に満たない。

<設問:環境破壊は私たちの生活の脅威となっていると思うか>

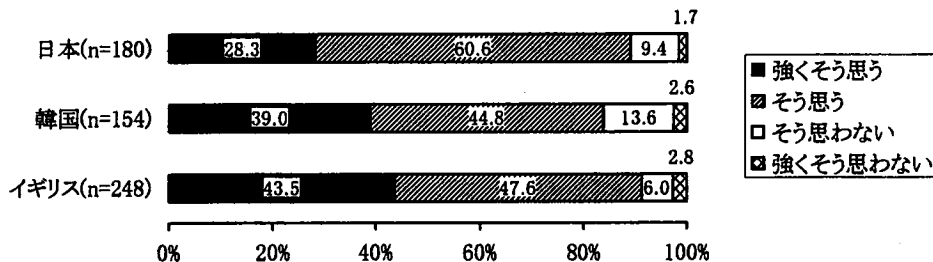


第14図 環境悪化の認識

2) 農業と自然環境との関わり

農業と自然環境との関わりについては3国で顕著な差はない。農業が自然環境を守る役割があると考える者はいずれも8割を超える高さにある。

<設問:自然環境を守るのも農業の役割だと思うか>

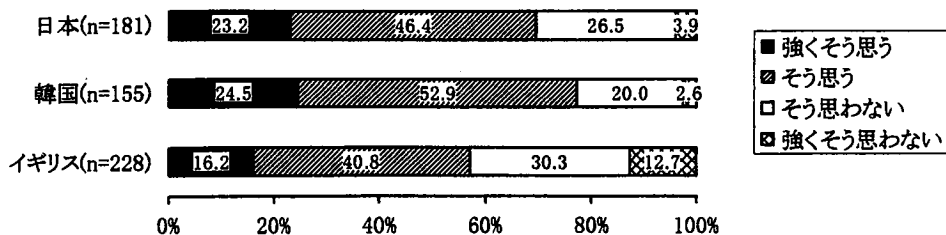


第15図 農業と自然環境との関わり

3) 農薬・肥料の化学物質の使用に対する考え

日本と韓国では構成割合に大きな違いはなく、6割以上が化学物質の使用は環境に負荷を与えているとしている。イギリスでも過半がその意識を有するが、日本や韓国ほど強くない。

<設問:化学物質を大量に使う現在の農業は環境を破壊すると思うか>

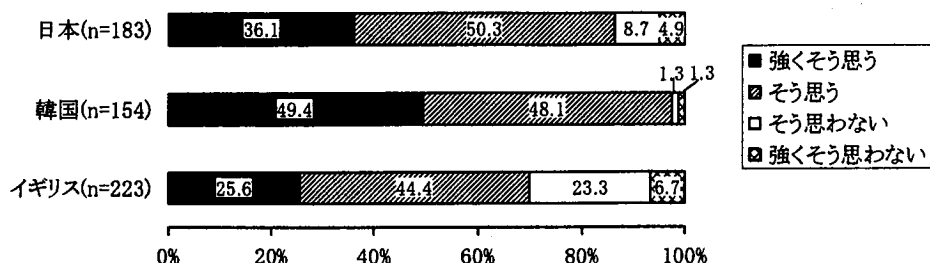


第16図 化学物質使用に対する考え

4) 化学物質の使用を減らす意思

前掲第 16 図の意識を反映して、化学物質を減らす意識は日本で 8 割、韓国で 9 割、イギリスでは 7 割が有している。

<設問: 自分は化学物質を減らしたいと思うか>



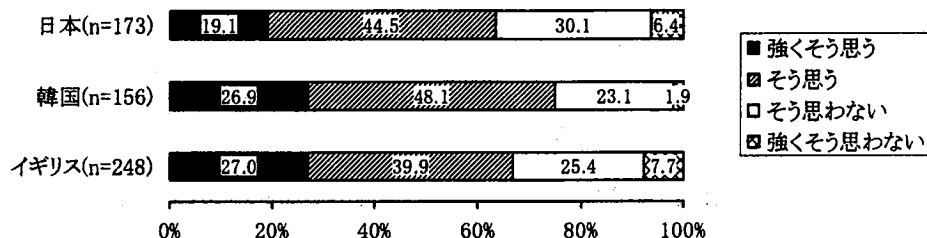
第17図 化学物質削減の意向

(4) 生活観

1) 家庭での決定権

3 国とも 6 ~ 7 割が家庭での重要事項の決定権を男性が握るべきだと思っており、男性の意志決定を重視している。ただし、これには回答者に男性が多いことの影響がある。

<設問: 家で重要な事柄を決めるのは男だと思うか>

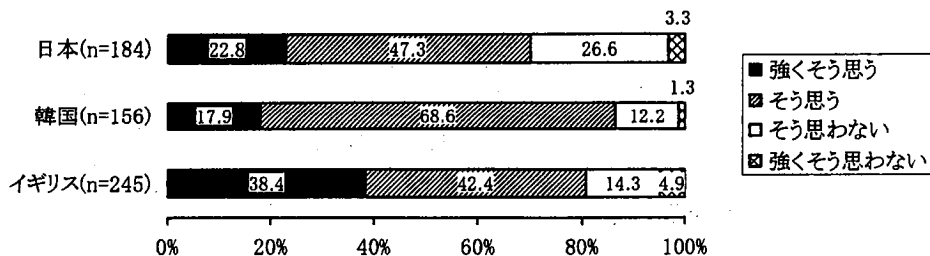


第18図 家での重要な事柄の決定権者

2) 日常の家事と女性の役割

家事と女性の役割は前掲第 18 図に示した意識とは逆になる。3 国とも 7 割以上が家事は女性の役割だと思っており、特にイギリスでは強く思っている者が 4 割弱と高い。

<設問: 料理・洗濯・買い物等は主に女性の仕事だと思うか>

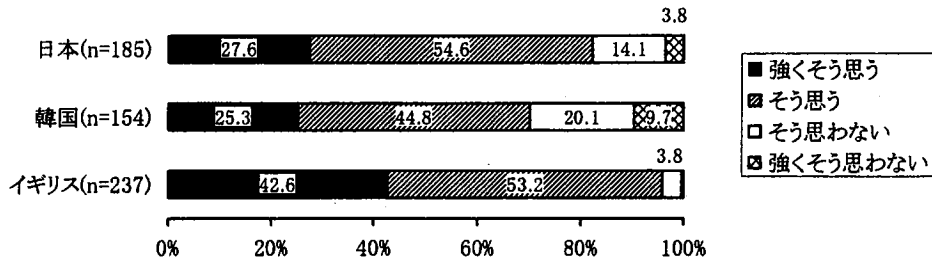


第19図 家事と女性の役割

3) 農地の継承

3 国とも全体としては後継ぎによる農地の一括継承を望ましいと考えており、特に日本とイギリスではその割合が高い。大規模層が多いイギリスでは、後継ぎによる農地の一括継承によって経営体として存続させる意識が強いといえよう。

<設問:後継ぎが農地をすべて継承するの望ましいと思うか>

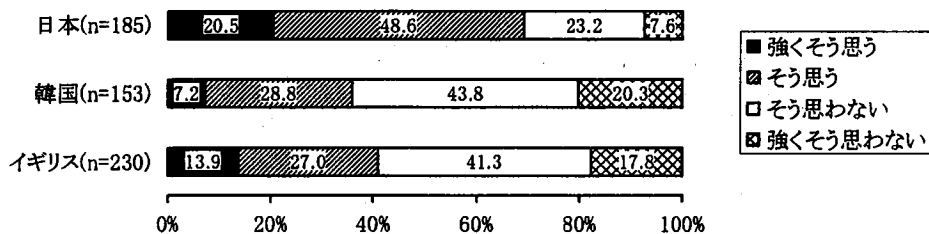


第20図 後継ぎによる農地の一括継承

4) 引退後における子供との同居

引退後の子供との同居は韓国とイギリスが4割程度であるのに比べて、日本の農業者は7割が同居を望んでおり、日本における子供との同居意識が強いことがうかがえる。

<設問:引退後は子供(またはその家族)と一緒に住みたいか>

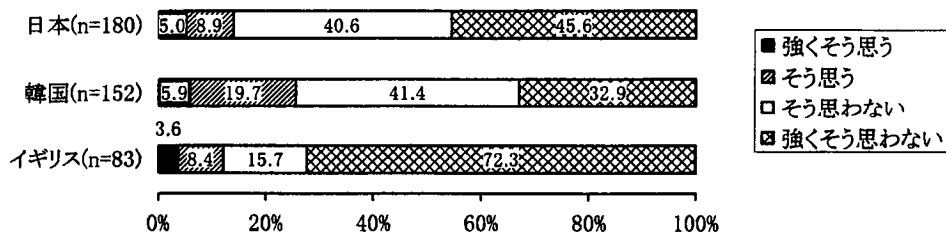


第21図 引退後の子供等との同居

5) 引退後の居住地

引退後を保養地や都市といった、これまでとは異なるところで過ごしたいという意識は3国とも低く、特にイギリスでは強くそう思わない者が7割に達する。

<設問:引退後は都市やリゾート地に住みたいと思うか>

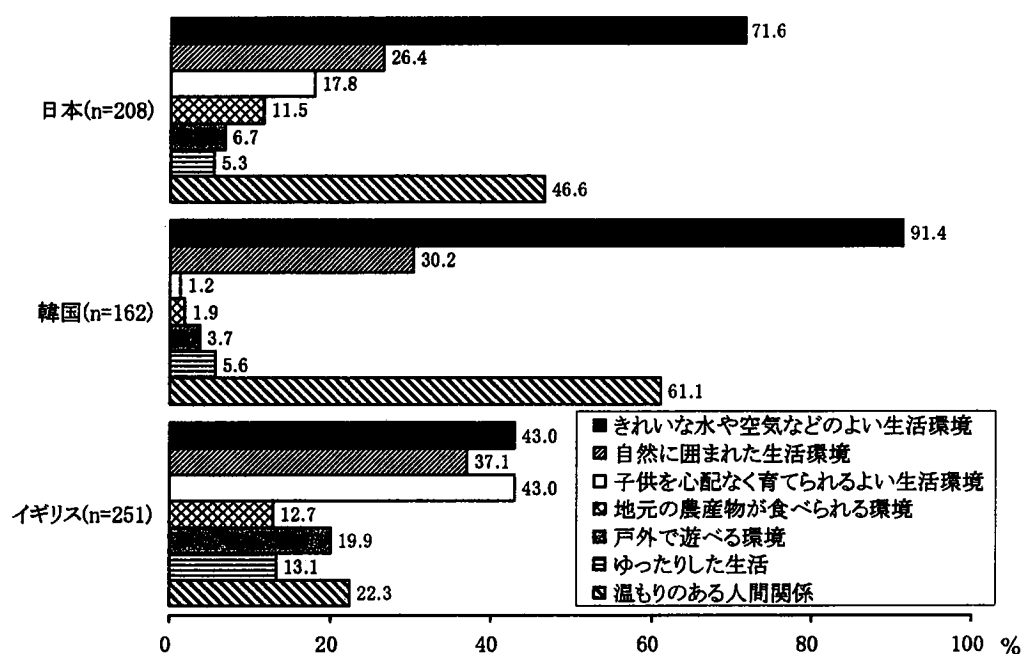


第22図 引退後における都市やリゾート地での居住

(5) 都市と農村との関係に対する考え方

1) 農村居住でプラスだと思う点

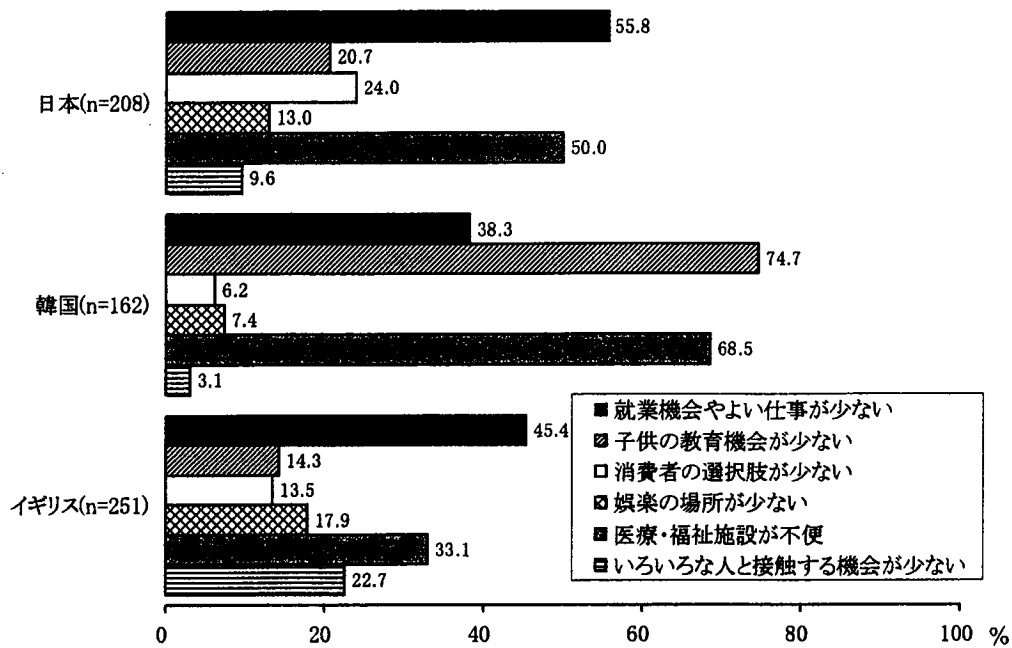
農村で生活する場合に、都市と比較してよいと思われる点を2つまでの複数回答であげてもらった。「きれいな水や空気などのよい生活環境」を挙げる者は日本と韓国はそれぞれ7割と9割に達するが、イギリスは4割にとどまる。また「子供を心配なく育てられる生活環境」を挙げる者は、日本とイギリスに比較して韓国にはほとんどいない。「温もりのある人間関係」を評価する者は、日本では4割、韓国では6割を超えているのに対し、イギリスでは2割である。総じて日本と韓国は、水や空気という自然環境、人間関係などの社会環境の点で農村生活を評価し、イギリスの農業者の意見は多様だと言える。



第23図 農村居住のプラス面(2つまでの選択を行う複数回答)

2) 農村居住でマイナスと考える点

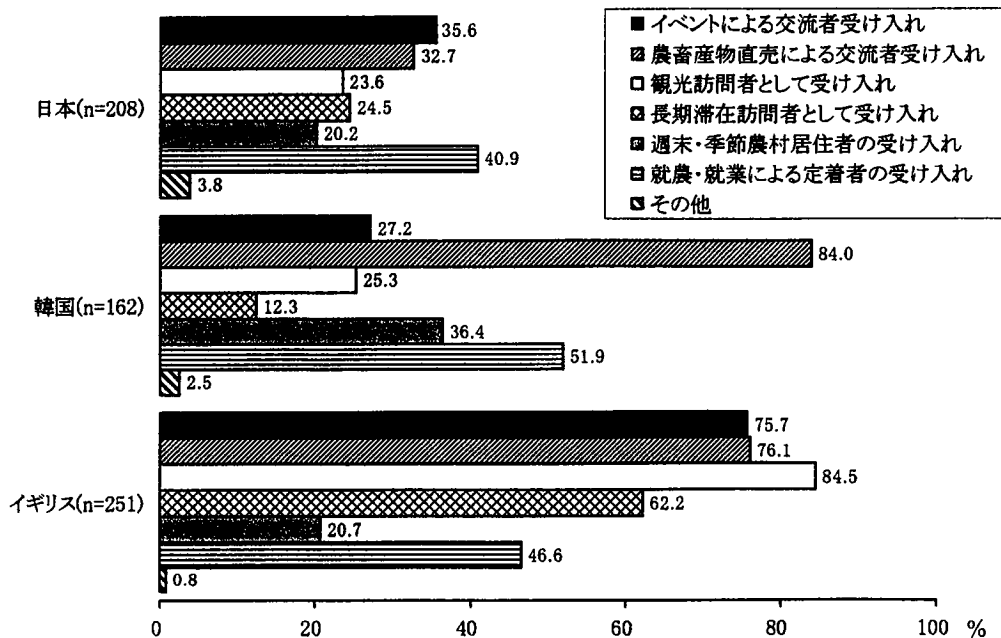
都市と比較して農村の生活が悪いと思われる点(2つまでの複数回答)で日本やイギリスでは就業機会や医療・福祉施設の少なさへの不満が目立つ。韓国では「子供の教育機会が少ない」や「医療・福祉施設が不便」の割合が7割前後と高い。韓国では農村と都市との格差の大きい状況を示していると思われる。



第24図 農村居住のマイナス面(2つまでの選択を行う複数回答)

3) 都市と農村との交流の姿についての意向

都市と農村との交流について意見(複数回答)は、各国ごとに多様である。日本では「就農・就業による定着者の受け入れ」が4割、韓国では「農畜産物直売による交流者受け入れ」が8割、イギリスでは「イベントによる交流者受け入れ」や「農畜産物直売による交流者受け入れ」、「観光訪問者として受け入れ」の割合が7～8割と高い。都市住民との交流は韓国とイギリスでは短期的、日本では長期的なものを望む傾向にあるといえよう。



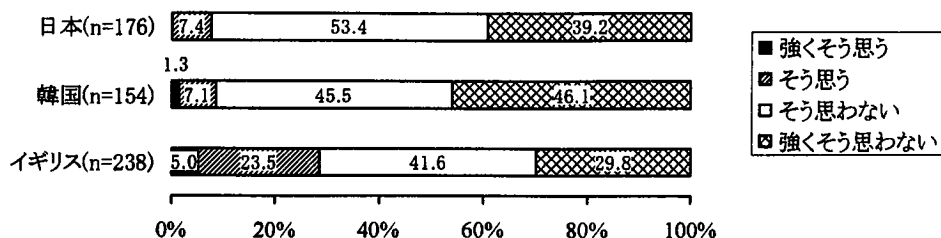
第25図 望ましい都市農村交流のあり方(複数回答)

(6) 農政に対する考え方

1) 現在の農政に対する賛否

現在行われている農政に対して3国とも不満が大きいとみてよい。ただし、イギリスが3割程度が満足と考えており、相対的には不満が少ない。

<設問:現在の農業政策に満足しているか>

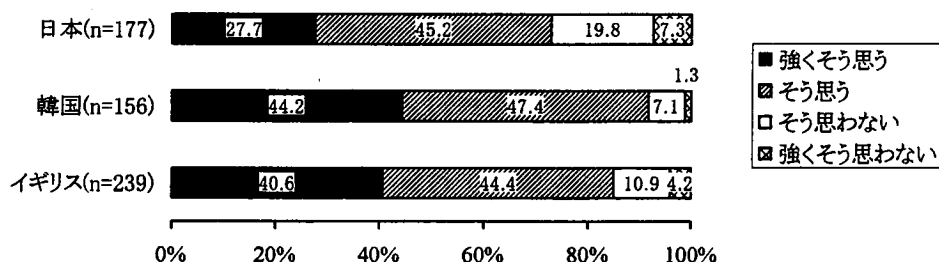


第26図 現在の農業政策に対する満足度

2) 条件不利地域 (LFA地域) への補償

各国とも何らかのかたちで条件不利地域へ補償をしている。その支援が十分かどうかの設問については、いずれも7割から9割の農業者がもっと支援が必要だと考えている。

<設問:条件不利地域(LFA地域)にはもっと所得補償が必要だと思うか>

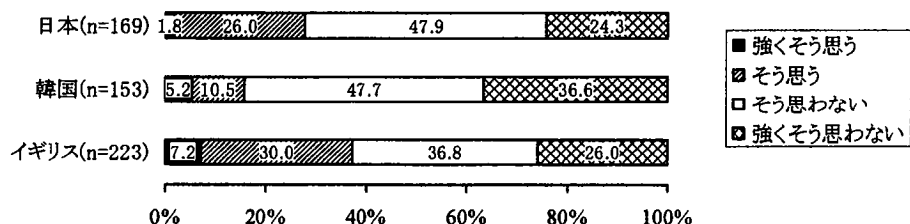


第27図 LFA地域に対する所得補償

3) 農産物の価格支持について

農産物の価格支持は、急速に削減されつつあるが、この動向に対して3国とも否定的な見解を示している。特に韓国ではその意識が強く、8割以上が価格支持の削減を否定している（逆にいえば多くの者が価格支持を望んでいる）。

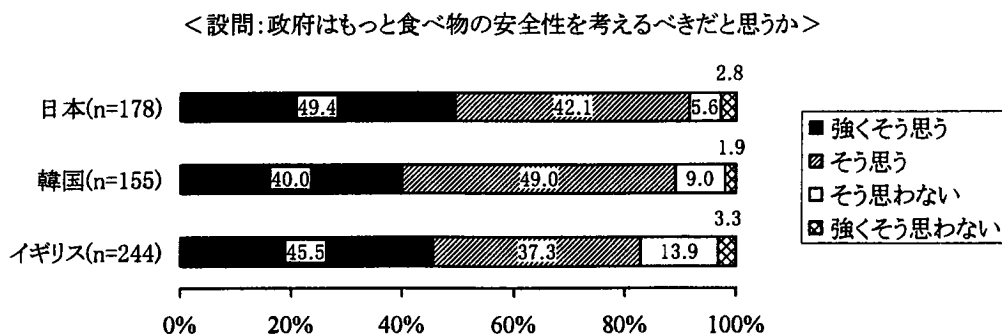
<設問:農産物の価格支持はさらに削減すべきだと思うか>



第28図 農産物の価格支持の削減意向

4) 食べ物の安全性について

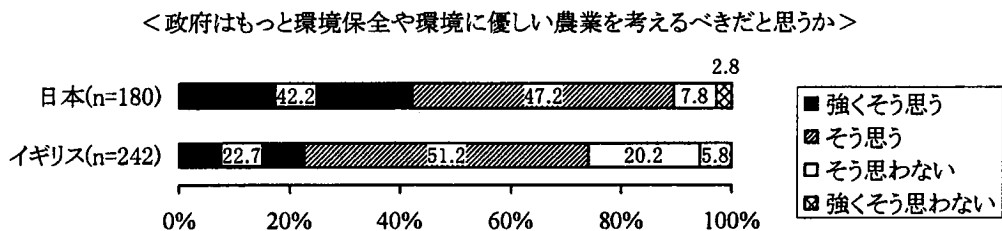
食べ物の安全性については3国とも関心が高く、8割以上が積極的な施策の必要性を考えている。



第29図 食べ物の安全性に関する政府の姿勢

5) 環境への配慮について

政府による環境への配慮に関しては、日本では9割、イギリスでは7割の農業者が必要だとしている。なお、この設問は韓国では採用されなかった。



第30図 環境保全や環境に優しい農業に対する政府の姿勢

4. まとめ

今までの分析を踏まえ、以下では本調査のとりまとめを行う。まず調査対象者の属性をみると、農業者の性格には下記4点において相違や特徴がみられる。

- ①. 日本では中山間地域が選択されたが、韓国では全国平均よりやや大きな規模になり、必ずしも中山間地域とは言えない。イギリスで畜産（特に酪農）に偏ったのは条件不利地域を選択したことに起因する。
- ②. 回答者はいずれの国も大部分が男性であり、年齢は日本と韓国で60歳以上が過半ないしそれ以上であるのに対し、イギリスでは50歳以下が8割近い。
- ③. 家族世帯員数は3カ国にそれほど大きな違いはないが、5人以上家族の割合が日本では3割以上を占めるのが特徴的で、同割合は韓国では2割、イギリスでは1割程度である。
- ④. 農業所得は、日本では農業外所得が80%を占める農家が8割となっているが、それに対して韓国やイギリスでは農業所得が80%以上の農家が6割を超える。韓国とイギリスでは農業外への就業経験が少ないことを合わせてみると、専門的農家の割合が高いことがわかる。

これらのことから、日本の場合は中山間地域における平均的な農家が選択されていると考えられるのに対し、韓国では農村で中心的に活動している層、イギリスでは畜産を選択した家族経営とイメージすることが可能であろう。このような属性を前提としての限りであるが、農業観をはじめとして、農業者の意向は各国でかなり異なっているといえることができる。

第1に、農業に対する基本的な認識としては、イギリスでは職業として農業を誇りに思っている者の割合が高いことが特徴的である。それに対して、日本や韓国では肯定と否定の意見が相半ばする。特に韓国では同国の平均的経営規模よりも大規模層の割合が高いにもかかわらず農業を誇りに思わない意見が多い。韓国における農業経営の不安定性や今後の見通しが良くないことを反映しているのではなかろうか。とはいえ、韓国では農業の規模拡大や農産物加工や販売に対して積極的な意見が目立つ。現状を打破するためにも新たな経営への取り組みが必要であることを示していると考ええる。他方、イギリスでは安定的な経営を目指しているようである。それは後継ぎを自分の子供にさせたいかどうかに現れており、その割合は日本と韓国では2～3割であるのに対し、イギリスでは6割近い。また、日本の場合は経営は必ずしも安定的ではないが、家の後継ぎという観点からの設問であれば、前述した割合は高まることが予想される。

第2に、環境に対する見方については、まず、農村環境の悪化に関する認識ではイギリスの農業者は日本や韓国と異なり、過半がそのように考えていないことが注目される。現実にはイギリスの田園地域の環境が良好に保たれているためであろう。また、実際に環境が悪化しているかどうかは別にして、農村地域の空間的変化は日本や韓国で顕著であるため、

両国ではイギリスより環境悪化への意識が高いのかもしれない。ただし、農業が自然環境を守るという点については3国とも差は少なく、その重要性は8割以上が認識している。また、農業における化学物質の使用が環境を悪化するという意識は、3国とも6～7割はそうだと考えている。またどの国でも、使用量を減らしたいとは考えているが、日韓が8割以上がそうであるのに対し、イギリスでは7割程度である。総じてイギリスでは化学物質の使用が環境を悪化させるという意識はやや低いと言えるだろう。

第3に、生活観に関する男女の役割に対する意識としては、3国とも男性を家の意志決定権者、女性を家事担当者と認識している。回答者に男性が多いとはいえ、男女の役割分担に対する意識は3国とも相違がないことが興味深い。ただし、農地の継承については、イギリスにおいて後継ぎによる一括継承の意識が高いことが注目される。農場制農業が支配的なイギリス農業は経営体として確立しているがゆえに、その存続や継承にこだわるため、後継ぎへの一括継承の意識が強く出てくるのであろう。他方、引退後の子供との同居願望は日本が著しく高い。家族形態としての直系家族が多い日本の特徴が意識の面でも現れている。なお、引退後の居住地として都市やリゾート地を希望する割合は3国とも低い。

第4に、都市と農村との関係について、まず農村居住でプラスと判断する点は日本と韓国で相似しており、水や空気などの生活環境と温もりのある人間関係を高く評価している。他方、イギリスでは上記の評価は高いものの、日本と韓国ほどではない。どちらかといえば、農村に対するプラスの評価はイギリスでは意見が分かれているといえる。農村居住におけるマイナス点は日本やイギリスは就業や医療・福祉施設の問題を挙げているが、韓国では教育環境と医療・福祉施設に対する割合が7割前後と高くなっている。韓国における農村の生活環境整備に遅れがあることが推察される。また、都市と農村との交流について韓国とイギリスでは短期的交流、日本では長期的交流を望む傾向にある。

最後に農政についての考え方を示して本稿の結びとしたい。まず、現在の農政一般については3国とも不満が多い。個別の施策をみると、条件不利地域政策や食の安全性への取り組み、環境政策については政府へ積極策を望んでいる。一方、農産物の価格支持が削減傾向にあることは3国の共通認識としてあり、それをさらに削減すべきかについては、いずれの国も否定的な態度を示している。ただし、日本やイギリスでは価格支持削減を肯定する割合が3～4割、最も割合が低い韓国でも2割程度存在する。今回の分析では示していないが、経営規模や作目によって価格支持に対する考えが農家間で異なっているのかもしれない。

集 計 表

環境観について(SA)		実数(人)			割合(%)		
		日本	韓国	イギリス	日本	韓国	イギリス
環境破壊は 私たちの生活 の脅威となっ ている	計	181	156	234	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	68	85	26	37.6	54.5	11.1
	そう思う	84	58	85	46.4	37.2	36.3
	そう思わない	24	11	80	13.3	7.1	34.2
	強くそう思わない	5	2	43	2.8	1.3	18.4
自然環境を 守るのも農業 の役割である	計	180	154	248	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	51	60	108	28.3	39.0	43.5
	そう思う	109	69	118	60.6	44.8	47.6
	そう思わない	17	21	15	9.4	13.6	6.0
	強くそう思わない	3	4	7	1.7	2.6	2.8
化学物質を 大量に使う現在 の農業は環境を 破壊する	計	181	155	228	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	42	38	37	23.2	24.5	16.2
	そう思う	84	82	93	46.4	52.9	40.8
	そう思わない	48	31	69	26.5	20.0	30.3
	強くそう思わない	7	4	29	3.9	2.6	12.7
自分は化学 資材を減らし たい	計	183	154	223	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	66	76	57	36.1	49.4	25.6
	そう思う	92	74	99	50.3	48.1	44.4
	そう思わない	16	2	52	8.7	1.3	23.3
	強くそう思わない	9	2	15	4.9	1.3	6.7

※各国の計は有効回答数.

生活観について(SA)		実数(人)			割合(%)		
		日本	韓国	イギリス	日本	韓国	イギリス
家で重要な 事柄を決める のは男である	計	173	156	248	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	33	42	67	19.1	26.9	27.0
	そう思う	77	75	99	44.5	48.1	39.9
	そう思わない	52	36	63	30.1	23.1	25.4
	強くそう思わない	11	3	19	6.4	1.9	7.7
料理、洗濯、 買い物等は 主に女性の 仕事である	計	184	156	245	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	42	28	94	22.8	17.9	38.4
	そう思う	87	107	104	47.3	68.6	42.4
	そう思わない	49	19	35	26.6	12.2	14.3
	強くそう思わない	6	2	12	3.3	1.3	4.9
後継ぎが農地 をすべて継承 するのが望ま しい	計	185	154	237	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	51	39	101	27.6	25.3	42.6
	そう思う	101	69	126	54.6	44.8	53.2
	そう思わない	26	31	9	14.1	20.1	3.8
	強くそう思わない	7	15	1	3.8	9.7	0.4
引退後は子供 (またはその家 族)と一緒に 住む	計	185	153	230	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	38	11	32	20.5	7.2	13.9
	そう思う	90	44	62	48.6	28.8	27.0
	そう思わない	43	67	95	23.2	43.8	41.3
	強くそう思わない	14	31	41	7.6	20.3	17.8
引退後は 都市や リゾート地 に住む	計	180	152	83	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	9	9	3	5.0	5.9	3.6
	そう思う	16	30	7	8.9	19.7	8.4
	そう思わない	73	63	13	40.6	41.4	15.7
	強くそう思わない	82	50	60	45.6	32.9	72.3

※各国の計は有効回答数.

回答者属性(SA)		実数(人)			割合(%)		
		日本	韓国	イギリス	日本	韓国	イギリス
性別	計	208	162	249	100.0	100.0	100.0
	男	157	162	200	75.5	100.0	80.3
	女	51	0	49	24.5	0.0	19.7
年齢	計	207	161	248	100.0	100.0	100.0
	29歳以下	0	0	6	0.0	0.0	2.4
	30代	2	5	27	1.0	3.1	10.9
	40代	28	43	68	13.5	26.7	27.4
	50代	50	37	84	24.2	23.0	33.9
	60代	51	54	42	24.6	33.5	16.9
	70歳以上	76	22	21	36.7	13.7	8.5
主要作目	計	202	138	250	100.0	100.0	100.0
	穀作物	140	72	7	69.3	52.2	2.8
	畜産及び酪農	2	12	243	1.0	8.7	97.2
	果樹	2	23	0	1.0	16.7	0.0
	野菜	40	23	0	19.8	16.7	0.0
	その他	18	8	0	8.9	5.8	0.0
世帯員数	計	208	160	250	100.0	100.0	100.0
	1人	24	22	15	11.5	13.8	6.0
	2人	51	54	73	24.5	33.8	29.2
	3人	43	31	60	20.7	19.4	24.0
	4人	25	19	68	12.0	11.9	27.2
	5人	33	20	19	15.9	12.5	7.6
	6人	17	8	9	8.2	5.0	3.6
	7人以上	15	6	6	7.2	3.8	2.4
農業所得の割合	計	202	162	242	100.0	100.0	100.0
	80%以上	5	96	153	2.5	59.3	63.2
	80～50%	11	36	44	5.4	22.2	18.2
	50～20%	24	21	25	11.9	13.0	10.3
	20%未満	162	9	20	80.2	5.6	8.3
農業以外の職業へ就業期間	計	208	161	84	100.0	100.0	100.0
	経験がない	13	71	21	6.3	44.1	25.0
	1～5年	17	40	21	8.2	24.8	25.0
	6～10年	11	24	41	5.3	14.9	48.8
	11年以上	167	26	1	80.3	16.1	1.2

※各国の計は有効回答数.

農業観について(SA)		実数(人)			割合(%)		
		日本	韓国	イギリス	日本	韓国	イギリス
農業に対する誇り	計	180	155	247	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	20	19	199	11.1	12.3	80.6
	そう思う	59	44	44	32.8	28.4	17.8
	そう思わない	67	68	3	37.2	43.9	1.2
	強くそう思わない	34	24	1	18.9	15.5	0.4
大規模農業、低コスト農業	計	168	148	230	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	24	49	30	14.3	33.1	13.0
	そう思う	56	65	74	33.3	43.9	32.2
	そう思わない	58	25	89	34.5	16.9	38.7
	強くそう思わない	30	9	37	17.9	6.1	16.1
規模拡大	計	174	148	239	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	8	49	38	4.6	33.1	15.9
	そう思う	12	65	79	6.9	43.9	33.1
	そう思わない	62	25	87	35.6	16.9	36.4
	強くそう思わない	92	9	35	52.9	6.1	14.6
農産物加工・販売	計	166	151	234	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	5	54	41	3.0	35.8	17.5
	そう思う	37	70	67	22.3	46.4	28.6
	そう思わない	56	19	91	33.7	12.6	38.9
	強くそう思わない	68	8	35	41.0	5.3	15.0
農業以外への職業への転職	計	169	152	149	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	15	21	9	8.9	13.8	6.0
	そう思う	48	49	18	28.4	32.2	12.1
	そう思わない	54	52	39	32.0	34.2	26.2
	強くそう思わない	52	30	83	30.8	19.7	55.7
B&Bやレストラン	計	165	150	245	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	3	14	21	1.8	9.3	8.6
	そう思う	10	29	35	6.1	19.3	14.3
	そう思わない	45	45	83	27.3	30.0	33.9
	強くそう思わない	107	62	106	64.8	41.3	43.3
子弟への農場継承	計	175	151	239	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	14	5	16	8.0	3.3	6.7
	そう思う	48	19	125	27.4	12.6	52.3
	そう思わない	52	42	71	29.7	27.8	29.7
	強くそう思わない	61	85	27	34.9	56.3	11.3

※各国の計は有効回答数.

都市と農村との関係について(MA)		実数(人)			割合(%)		
		日本	韓国	イギリス	日本	韓国	イギリス
農村居住の プラス面	計	208	162	251	100.0	100.0	100.0
	きれいな水や空気などのよい生活環境	149	148	108	71.6	91.4	43.0
	自然に囲まれた生活環境	55	49	93	26.4	30.2	37.1
	子供を心配なく育てられるよい生活環境	37	2	108	17.8	1.2	43.0
	地元の農産物が食べられる環境	24	3	32	11.5	1.9	12.7
	戸外で遊べる環境	14	6	50	6.7	3.7	19.9
	ゆったりした生活	11	9	33	5.3	5.6	13.1
	温もりのある人間関係	97	99	56	46.6	61.1	22.3
	その他	0	0	4	0.0	0.0	1.6
農村居住の マイナス面	計	208	162	251	100.0	100.0	100.0
	就業機会やよい仕事が少ない	116	62	114	55.8	38.3	45.4
	子供の教育機会が少ない	43	121	36	20.7	74.7	14.3
	消費者の選択肢が少ない	50	10	34	24.0	6.2	13.5
	娯楽の場が少ない	27	12	45	13.0	7.4	17.9
	医療・福祉施設が不便	104	111	83	50.0	68.5	33.1
	いろいろな人と接触する機会が少ない	20	5	57	9.6	3.1	22.7
	その他	0	0	43	0.0	0.0	17.1
望ましい都市 と農村の交流	計	208	162	251	100.0	100.0	100.0
	イベントによる交流者受け入れ	74	44	190	35.6	27.2	75.7
	農畜産物直売による交流者受け入れ	68	136	191	32.7	84.0	76.1
	観光訪問者として受け入れ	49	41	212	23.6	25.3	84.5
	長期滞在訪問者として受け入れ	51	20	156	24.5	12.3	62.2
	週末・季節農村居住者の受け入れ	42	59	52	20.2	36.4	20.7
	就農・就業による定着者の受け入れ	85	84	117	40.9	51.9	46.6
	その他	8	4	2	3.8	2.5	0.8

※各国の計は有効回答数.

農政観について(SA)		実数(人)			割合(%)		
		日本	韓国	イギリス	日本	韓国	イギリス
現在の農業政策 に満足している	計	176	154	238	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	0	2	12	0.0	1.3	5.0
	そう思う	13	11	56	7.4	7.1	23.5
	そう思わない	94	70	99	53.4	45.5	41.6
	強くそう思わない	69	71	71	39.2	46.1	29.8
LFA地域には もっと所得の 補償が必要だ	計	177	156	239	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	49	69	97	27.7	44.2	40.6
	そう思う	80	74	106	45.2	47.4	44.4
	そう思わない	35	11	26	19.8	7.1	10.9
	強くそう思わない	13	2	10	7.3	1.3	4.2
農産物の価格 支持はさらに 削減すべきだ	計	169	153	223	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	3	8	16	1.8	5.2	7.2
	そう思う	44	16	67	26.0	10.5	30.0
	そう思わない	81	73	82	47.9	47.7	36.8
	強くそう思わない	41	56	58	24.3	36.6	26.0
政府はもっと食べ 物の安全性を 考えるべきだ	計	178	155	244	100.0	100.0	100.0
	強くそう思う	88	62	111	49.4	40.0	45.5
	そう思う	75	76	91	42.1	49.0	37.3
	そう思わない	10	14	34	5.6	9.0	13.9
	強くそう思わない	5	3	8	2.8	1.9	3.3
政府はもっと 環境保全や 環境にやさしい 農業を考える べきだ	計	180	NA	242	100.0	NA	100.0
	強くそう思う	76	NA	55	42.2	NA	22.7
	そう思う	85	NA	124	47.2	NA	51.2
	そう思わない	14	NA	49	7.8	NA	20.2
	強くそう思わない	5	NA	14	2.8	NA	5.8

※各国の計は有効回答数.

アンケート調査票
(日本語版、英語版)

農業・農村に対する意識の国際比較アンケート調査

—— 中山間地域の家族農業の経営主 ——

場所	2002年	月	日
----	-------	---	---

Q 1 あなたの性別は、どちらですか？

(1つに○)

- 1 男性 2 女性

Q 2 あなたの年齢は、次のどれですか？ (1つに○)

- 1 29歳以下 2 30歳代 3 40歳代 4 50歳代 5 60歳代 6 70歳以上

Q 3 あなたの農業経営において、最も中心的な作目は次のどれですか？ (1つに○)

- 1 穀作物 2 畜産及び酪農 3 果樹 4 野菜 5 その他

Q 4 Q 5 あなたの世帯は、合計何人が一緒に暮らしていますか？ (1つに○)

- 1 1人 2 2人 3 3人 4 4人 5 5人 6 6人 7 7人以上

Q 5 あなたは学校卒業後、農業以外の仕事に主として従事した経験が何年ありますか？

(1つに○)

- 1 経験がない 2 1～5年 3 6～10年 4 11年以上

Q 6 あなたの世帯が経営している総耕地面積は、次のどれに該当しますか？ (1つに○)

- 1 10～49アール 2 50～99アール 3 100～199アール
4 200～299アール 5 300アール以上

Q 7 あなたの世帯の合計収入に占める農業収入の割合は次のどれですか？ (1つに○))

- 1 農業収入が80%以上 2 農業収入が80～50%
3 農業収入が50～20% 4 農業収入が20%未満

Q 8 次の諸項目について、あなた自身の考え方に最も近いものを○で囲んでください。

	強 く そ う 思 う	ま あ そ う 思 う	そ う 思 わ な い	全 く 思 わ な い
《農業観》				
a 農民であることを誇りに思いますか	1	2	3	4
b 農作物はなるべく大規模低コストに作るのが良い	1	2	3	4
c 耕地面積は、できれば拡大したい	1	2	3	4
d 経営において、加工・販売部門を重視したい	1	2	3	4
e 農業でいくより、農外への転職を考える	1	2	3	4
f 民宿やレストランなど他部門での起業をしたい	1	2	3	4
g 子供に農業を継いでもらいたい	1	2	3	4
《環境観》				
h 自然環境の破壊が人間の生命の安全を脅かしている	1	2	3	4
i 農業の意義は自然環境を保全している	1	2	3	4
j 農薬・肥料多投の現在の農業は環境を破壊している	1	2	3	4
k 農作物の栽培では農薬等を減らす努力をしたい	1	2	3	4
《生活観》				
l 我家では大事な事柄を決めるのは概ね夫である	1	2	3	4
m 炊事や洗濯や買物は主として女性の役割である	1	2	3	4
n 耕地・家屋敷は農業後継者が一括相続するのが良い	1	2	3	4
o 老後は、子供夫婦と同居したい	1	2	3	4
p 老後は、別の場所（都市や避暑地など）に住みたい	1	2	3	4
《農政観》				
q 国の農政に満足している	1	2	3	4
r 条件不利地域の直接所得保障額をあげるべきだ	1	2	3	4
s 農産物支持価格の引下げは今後も続けるべきだ	1	2	3	4
t 食物の安全性問題を農政はもっと重視すべきだ	1	2	3	4
u 自然保全や環境保全型農業を農政はより重視すべきだ	1	2	3	4

Q 9 農村に生活することは、都市の生活に比べて、どのような点でプラス面を有していると思いますか。下記の 1)～ 7) 選択項目について、最もふさわしいと思われる意見の選択肢を 2 つ選んで○をつけて下さい。

- 1) 「おいしい水」「きれいな空気」などの生活環境
- 2) ゆとりのある居住空間
- 3) 子供が伸び伸び育つ、子育てに良好な環境
- 4) 地場産の生鮮食品等を容易に購入できる環境
- 5) 良好な自然の中でのアウトドア活動を行う機会
- 6) 「ゆとり」のあるライフスタイル
- 7) 温かい心遣いなどの親密な人間関係

Q 10 農村に生活することは、都市生活に比べて、どのような点で不満な面があると思いますか。下記の 1)～ 6) 選択項目について、最もふさわしいと思われる意見の選択肢を 2 つ選んで○をつけて下さい。

- 1) 様々な就業機会や就業条件
- 2) 子供の能力に応じた教育の機会
- 3) 豊富な品揃えのもとで買物が可能な消費生活の利便性
- 4) 様々な歓楽・娯楽を享受する機会
- 5) 高度な医療・福祉施設利用の利便性
- 6) 様々な人と知り合う豊富な機会

Q 11 今後都市と農村を自由に行き来する人が増え、都市住民との交流が活発化することが考えられます。仮に、都市と農村の住民の往来を活発化するとすれば、どのような形での訪問、滞在の増加が望ましいと考えますか。下記の 1)～ 7) の選択肢から、該当するものすべて選んで○をつけて下さい。

- 1) イベント（祭、市など）による交流者の受け入れ
- 2) 農畜産物直売による交流者の受け入れ
- 3) 観光での訪問者としての受け入れ
- 4) 長期滞在の訪問者の受け入れ
- 5) 都市と農村での 2 ヶ所居住者（週末・季節居住）の受け入れ
- 6) 就農や就業により年間を通じて地域で生活する定住者の受け入れ
- 7) その他（ ）

Family Farm Survey Questionnaire

Attitude survey with the proprietor of the family farm - March 2003

Good morning/afternoon/evening, my name is and I am calling on behalf of Produce Studies Research, a company which specialises in agricultural research. We are currently undertaking a research study amongst farmers in selected areas of the UK. We are NOT engaged in any type of selling or direct mail. This is purely a research study.

We would very much appreciate your help with this study. We are looking to speak to farmers with a particular farming profile, so firstly I'd like to ask you a short series of questions to see if you match our criteria. The whole interview will take no longer than 10-15 minutes.

Once I have finished the interview I will be able to tell you a little more about the purpose of the research.

INTERVIEWER: If farmer requires further reassurance read out...

I'd like to I reassure you that this interview will be conducted in accordance the Market Research Society's code of conduct. Neither your individual identity nor your individual answers will be revealed during the analysis of the research results. Should you have any further concerns, please feel free to contact Jason Hickson, the researcher in charge of this study at Produce Studies Research on 01635 46112.

Q1. Firstly are you're the proprietor/farm owner ?

Yes	1	Continue
No	2	ASK TO SPEAK TO THE PROPRIETOR/FARM OWNER AND CONTINUE

Q2. Does your farm qualify for subsidies under the DEFRA 'Less Favoured Area (LFA)' scheme?

Yes	1	Continue
No	2	THANK AND CLOSE

Q3. Which of the following farm types best describes your farm...READ OUT - SINGLE CODE ONLY

A commercial farm employing non-family qualified staff	1	THANK AND CLOSE
A family run farm	2	Continue
(DO NOT READ OUT) Refused	Y	THANK AND CLOSE

Q3b. Which of the following best describes the main agricultural enterprise (produce) on your farm?
....is it (READ OUT) - SINGLE CODE ONLY

...Cereals and oil seeds	1
...Livestock or dairy products	2
...Fruit	3
...Vegetables	4
(DO NOT READ OUT) Other (please specify) _____	5
(DO NOT READ OUT) Refused	Y

Interview serial number:

Q4. In total, approximately how many HECTARES does your farm manage; that is for all crops, cattle and grassland? RECORD NUMERICAL VALUE IN SPACE PROVIDED BELOW

(Approx 2.5 acres to a hectare)

Total farm area/size:	_____ hectares
Refused	Y

Q4b. And, approximately how many of the following types of LIVE-STOCK does your farm manage?
READ OUT LIST BELOW - RECORD TOTAL NUMBER FOR EACH TYPE OF LIVE-STOCK

Dairy Cows	_____ (total number)
Beef Cattle	_____ (total number)
Sheep	_____ (total number)
Any Other Cattle? (please specify)	
_____	_____ (total number)
_____	_____ (total number)
_____	_____ (total number)
_____	_____ (total number)
Refused	Y

Q5/. I'd now like to read you a series of statements about agriculture. For each statement please indicate your strength of agreement or disagreement using a scale from strongly agree to strongly disagree.....
(READ OUT EACH STATEMENT AND CONFIRM/READ THE SCORE BACK TO THE RESPONDENT AFTER THEY HAVE ANSWERED)

ROTATE STATEMENT & SECTION ORDER

		Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree	Don't Know
☒	b/. Environment					
☒	<i>Tick start of order rotation</i>					
☐	h. Destruction of the environment has become a threat to the safety of human life	1	2	3	4	X
☐	i. One of the functions of agriculture is to preserve the natural environment	1	2	3	4	X
☐	j. Present agricultural practices which use high chemical inputs is destroying the environment	1	2	3	4	X
☐	k. You hope to reduce agricultural chemicals used for cultivating your own farm products	1	2	3	4	X

		Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree	Don't Know
c/. Lifestyle						
☒	<i>Tick start of order rotation</i>					
☐	l. It is usually the man of the house/farm who decides important matters	1	2	3	4	X
☐	m. Mainly it is the women of the family who do cooking, washing, and shopping for groceries	1	2	3	4	X
☐	n. It is good if a farmers successor maintains all inherited arable land, as well as any farm house as a single operating unit	1	2	3	4	X
☐	o. You want to live with your child/children (and his/her family) after retiring	1	2	3	4	X
☐	p. You would like to live in another place such as city or tourist resort when you retire	1	2	3	4	X

		Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree	Don't Know
d/. Agricultural Policies						
☒	<i>Tick start of order rotation</i>					
☐	q. You are content with the current agricultural policies	1	2	3	4	X
☐	r. The LFA disadvantaged rural areas should receive more direct income support (direct payment?).	1	2	3	4	X
☐	s. Agricultural product support prices (subsidies) should be continually reduced	1	2	3	4	X
☐	t. The government should care more about food safety	1	2	3	4	X
☐	u. The government should care more about environment preservation and environmentally friendly farming	1	2	3	4	X

		Strongly Agree	Agree	Disagree	Strongly Disagree	Don't Know
a/. Agriculture						
☒	<i>Tick start of order rotation</i>					
☐	a. You take pride in farming	1	2	3	4	X
☐	b. Large-scale, low cost farming is good	1	2	3	4	X
☐	c. You want to expand your farming area if possible	1	2	3	4	X
☐	d. You would like to seriously consider off-farm processing and sales	1	2	3	4	X
☐	e. Rather than keeping the farm, you are considering finding a job outside farming	1	2	3	4	X
☐	f. You are interested in starting a business such as a Bed & Breakfast, a guest house or a restaurant	1	2	3	4	X
☐	g. You want the running of the farm to be succeeded by your child(ren)	1	2	3	4	X

Q6. I'd now like to read you a list of 7 advantages of living in a farming/rural area compared to a city. Which TWO answers from the list do you think are the main advantages. READ OUT & ROTATE ORDER

☒ Tick start of order rotation

☐	The good living environment such as "pure water" and "clean air"	1
☐	The living environment surrounded by nature	2
☐	The good environment where children grow up free from all cares	3
☐	The good environment where fresh products from local people are easily available.	4
☐	The opportunity to enjoy the outdoors	5
☐	The slower speed of life	6
☐	The warm, kind and close personal relationships	7
	(DO NOT READ OUT) None/No other advantages	0
	(DO NOT READ OUT) Don't know	X

Q7. I'd now like to read you a list of 6 disadvantages of living in a farming/rural area compared to a city. Which TWO answers from the list do you think are the main disadvantages. READ OUT & ROTATE ORDER

☒ Tick start of order rotation

☐	The limited job opportunities or poor working conditions	1
☐	The limited educational opportunities regardless of childrens' ability	2
☐	The poor stock and limited choices at stores for consumers	3
☐	The few places where you can enjoy amusements and entertainments	4
☐	The difficult access to medical care and welfare institutions	5
☐	The few opportunities to meet various people from different backgrounds	6
	(DO NOT READ OUT) None of the above	0
	(DO NOT READ OUT) Don't know	X

Q8. It can be foreseen that in future more people from urban areas will visit rural areas and vice-versa. The interchange with people from cities will be more active. If this trend were to be promoted, then which of the following types of visitors do you think should be encouraged the most? Select as many of the following 7 answers as you want. READ OUT & ROTATE ORDER - MULTI-CODE OPTION

☒ Tick start of order rotation

☐	Visitors who come to take part in village events such as festivals and markets	1
☐	Visitors who come for direct sales of agricultural products	2
☐	Visitors who come for short-term touring (holidays)	3
☐	Visitors who come for long-term touring (whole season tourists)	4
☐	People who would live in two places in a city and in a farm village (weekend / seasonal residence).	5
☐	People who would move from a city to a farm village for permanent residence & employment.	6
	(DO NOT READ OUT) Others (please specify) _____	7
	(DO NOT READ OUT) None of the above	0
	(DO NOT READ OUT) Don't Know	X

Final Questionnaire 13/03/03- R2

Q9. Please may I ask which of the following age ranges you fit? READ OUT - SINGLE CODE

Under 29	1
30 - 39	2
40 - 49	3
50 - 59	4
60 - 69	5
70 and over	6
Refused	Y

Q10. Have you worked any job other than farming since you finished education? SINGLE CODE

Yes	1	ASK QUESTION Q10B
No	2	GOTO Q11
Don't know	X	GOTO Q11

Q10b/. In total, approximately how many years have you worked in jobs other than farming since you finished education? SINGLE CODE TO MATCH ANSWER

Less than 1 year	1
1-5 years	2
6-10 years	3
11 years or more	4
Don't know	X

ASK ALL

Q11. How many family members do you have within your household (inc. yourself)? READ OUT - SINGLE CODE

One	1
Two	2
Three	3
Four	4
Five	5
Six	6
Seven or more	7
Refused	Y

Q12. How much of your total household income comes from your farm earnings? Would it be... READ OUT SINGLE CODE

80% or more from farming	1
50% to 79% from farming	2
20%-49% from farming	3
Less than 20% from farming	4
(DO NOT READ OUT) Don't know	X
(DO NOT READ OUT) Refused	Y

Final Questionnaire 13/03/03- R2

Q13. And finally, would you be prepared to be re-contacted in the future to take part in further research related specifically to this study?

Yes	1
No	2

Thank you for taking the time to participate in this study. I can now reveal that this project has been commissioned by the Policy Research Institute, a research organisation for agricultural policies in Japan.

They conduct various socio-economic research projects on agriculture and farming and provide the findings and advice to the Government for their agricultural policy development. They also report the results of the research to related academic organisations for their agricultural policy analysis.

SEE INTERVIEWER INSTRUCTIONS SHOULD MORE INFORMATION BE REQUESTED BY THE RESPONDENT

INTERVIEWER: CODE THE TWO QUESTIONS BELOW & COMPLETE FRONT PAGE DETAILS FROM THE INFORMATION ON FARMER CONTACT LISTS

Q14. (DO NOT READ OUT) Code gender of farm owner/respondent:

Male	1
Female	2

Q15. (DO NOT READ OUT) Code country / region from sample list:

North East - England	1
North West - England	2
Midlands - England	3
East Coast - England	4
South West - England	5
Wales	6

平成17年6月9日

印刷・発行

ライフスタイルプロジェクト研究資料 第3号

農業者意識の国際比較

—日本・韓国・イギリス—

編集発行 農林水産省 農林水産政策研究所

〒114-0024 東京都北区西ヶ原2丁目2-1

電話 東京 (03) 3910-3946

FAX (03) 3940-0232

株式会社 美巧社